

社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

2006年度事業報告

I 概要

2006年度はフライヤー会員数の減少傾向に歯止めを掛けることを目標としてきました。

このため新規教員の育成、スクールとの連携強化、会費の口座振替制度の導入を始め各種普及事業を効率的に推進しました。特に口座振替制度は、フライヤー会員の更新忘れによる第三者賠償責任保険切れを防止する上からも重要なことです。

しかしながら実績で判断する限り、これら諸施策の効果は次年度に持ち越されたと言わざるを得ません。即ち2006年度のフライヤー会員登録者は6,904人(1年会員3,985、3年会員2,919)で、対前年度-4%でした。この結果有効会員数は3月末で12,857名となりました。

一方、技能証発行実績は、HG技能証239枚(対前年比-11%)、PG技能証1,792枚(同-11%)、MPG技能証73枚(同-34%)でした。フライヤー会員登録数に比して技能証発行の減少が大きいのは、新規愛好家が増えていないことが原因と思われます。

今後はフライヤー会員の増加に向けて対策を講ずることはもちろんのこと、フライヤー会員一万人規模でも生き残れる組織つくりが必要と判断されます。

なお普及振興の基本が、フライトの安全性確保であることは言うまでもありません。この点については、スクール・クラブ通信やホームページを通じて、安全確認やセルフチェックの励行を呼びかけ安全飛行の啓蒙に努めました。

1 収支の安定

前年度の改革を受けて、2006年度は引き続き公益法人会計指針に基き予算管理を厳格に行うとともに、毎月の理事会で「収支進捗状況」を確認しました。また正会員等からの問い合わせにも積極的に回答し、財務内容の透明性に務めました。

この結果運営収支はより安定し、2項掲示のようにJHFの基盤となる会員データ管理システムやネットワークへの投資を行うとともに、委員会活動の旅費交通費も計画的に支給し本来の普及振興活動が展開できるようになりました。さらにフライヤーのニーズに応えて、時代に即したパラグライダー教本の改訂にも着手したところです。

2 効率的な普及振興事業の実施

- 1) 新会員データ管理システムJHF DATA CENTER(略称JDC)を構築しました。
旧会員データ管理システム償却にともない、これに代わるものとして開発。
- 2) フライヤー会費の口座振替による納入が出来るようにしました。
更新忘れによる無保障飛行を防止するため。
- 3) パラグライダー教本の改訂に着手しました。
担当者交代のため、発行は2007年秋を予定。
- 4) 技能証カードの種類を統一し、デザインを一新しました。
発行コストを削減するため。
- 5) スカイレジャー航空無線機を20台追加購入しました。

大会・イベント等への貸出しを円滑に行うことが出来た。

- 6) フライヤーの為のグループ傷害保険「JHF総合保障制度」を始めました。
東海日動パートナーズジャパンと提携、初年度加入者443名。

3 特記事項

- 1) 第30回鳥人間コンテスト選手権大会を協賛
7月22日(土)～7月23日(日) 滋賀県彦根市松原水泳場
- 2) 2006年スカイレジャージャパンに参加
8月5日(土)～8月6日(日)
- 3) スカイスポーツシンポジュームを協賛
12月2日(土)～3日(日) 日本大学理工学部駿河台校舎
- 4) リアルパラワールド木島平ミーティングを協賛
3月24日(土)～25日(日)

II 事項別状況

1. 組織

- (1) 会員数
 - ア 正会員 47名
 - イ フライヤー会員 12,857名 (2007年3月末有効登録数)
 - ウ 賛助会員 6名
- (2) 役員構成
7名 (内会長1名、副会長1名) 監事 1名 (2007年3月末現在)

2. 会議等の開催

(1) 総会

2006年度	6月通常総会
開催通知	2005年5月19日
開催日	2006年6月14日(水)13:00～17:00
開催場所	新宿スポーツセンター 新宿区立総合体育館1号館2階大会議室
議案	第1号議案 定款の一部改正について 第2号議案 2005年度事業報告の承認について 第3号議案 2005年度決算報告の承認について 第4号議案 2006年度事業計画 第5号議案 2006年度予算案 第6号議案 選舉管理委員の選任 第7号議案 JHFロゴマークの決定

(2) 理事会

ア 第1回理事会	開催日 4月18日
イ 第2回理事会	開催日 5月12日

ウ	第3回理事会	開催日	6月 8日
エ	第4回理事会	開催日	7月 5日
オ	第5回理事会	開催日	8月 23日
カ	第6回理事会	開催日	9月 19日
キ	第7回理事会	開催日	10月 18日
ク	第8回理事会	開催日	11月 13日
ケ	第9回理事会	開催日	12月 11日
コ	第10回理事会	開催日	1月 12日
サ	第11回理事会	開催日	2月 19日
シ	第12回理事会	開催日	3月 15日

(3) 委員会等

電子メール会議を実施し、経費節減に努めた。
ア ハンググライディング競技委員会 競技会開催時に実施
イ パラグライディング競技委員会 競技会開催時に実施
ウ 補助動力委員会 8/10
エ 教習検定委員会 5/30、7/25、2/27、2/28
オ 安全性委員会 6/27
カ 制度委員会 電子メール会議のみ
キ 選挙管理委員会 7/21、2/28
ク 広報出版部 4/20、6/9、12/20

3. 事業の実施状況（06/3 末）

(1) 一般への普及振興活動

ア	スクール・クラブ通信の発行	送付先：スクール・クラブ 358箇所、正会員
イ	JHF レポート簡易版発行	送付先：スクール・クラブ通信に同封、正会員
ウ	都道府県連盟事業費の交付	
エ	日本学生フライヤー連盟へ助成金交付	

(2) フライヤー会員登録

登録数： 6,904 人（新規・更新）

(3) 技能証発行

ア	HG : 239枚
イ	PG : 1,792枚
ウ	PW : 73枚 (MPG 技能証)

(4) 競技会の公認

ア	HG : 11件 (内カテゴリーII : 3件)
イ	PG : 22件 (内カテゴリーII : 2件)
ウ	HG・PG 同時開催 : 5件
エ	MPG : 1件

(5) 競技会の開催

ア HG :

① 2006 クラス I 日本選手権

2006年4月29日(土)～5月3日(水)、南陽市スカイパーク

参加78人(内女子8人)、日本選手権者：桂 敏之(女子)中村英絵

② 2007 クラス I 日本選手権

2007年3月17日(土)～3月21日(水) 石岡市板敷エリア

参加71人(内女子8人)、日本選手権者：加藤実、(女子)加味根あかり

③ ハンググライディングシリーズ：有成績者数113名(1位：外村仁克)

イ PG :

① 日本選手権、2006年11月3日～7日、アサギリ高原

参加85人、日本選手権者：加賀山務、(女子)河村葉子

② ジャパンリーグ・ワールド：有成績者数75名(1位：若山朋晴)

③ ジャパンリーグ・ナショナル：有成績者数101名(1位：若山朋晴)

④ ジャパンリーグ・女子：有成績者数11名(1位：平木啓子)

⑤ ジャパンリーグ・国際選抜：有成績者106名(1位：若山朋晴)

⑥ クロスカントリーリーグ(1位：関口典彦)

(6) 広報誌の発行

JHFレポート夏号(簡易版) 8月18日 10,000部

(7) スクール・エリア情報の収集及び公開

ア 優良パラグライダースクールサイト登録校 137件

イ ウェブサイトエリア情報掲載 153件

(8) 普及活動

ア 機体型式登録 34件(HG:2, PG:14)

イ レジャー航空無線貸与 延47件 1,593台

ウ フライヤーのための傷害保険「JHF総合保障制度」加入者数：443

(9) 海外関係団体活動

CIVL総会 2006年2月3日～4日、フランス/タロワ 出席者：デリゲイト岡芳樹

(10) 世界選手権へのチーム派遣

ア 2006年ハンググライディング クラスI女子、クラスV世界選手権

5月18～27日、USAフロリダ、参加メンバー：8名

イ 第1回パラグライディングエアロバティック世界選手権

2006年8月16日～27日、イスラエル/ビレノバ、参加メンバー：2名

ウ 第4回パラグライディングアキュラシー世界選手権

2007年2月9～18日、リトアニア/トラカイ 参加メンバー：5名

エ 第10回パラグライディング世界選手権

2007年2月24日～3月10日 オーストラリア/マニラ 参加メンバー：6名

以上

添付 2006年度 委員会等活動報告補足